

Title	レ線ニテ診断シタル全内臓錯位症ノ17例
Author(s)	關, 久; 坂本, 日出雄; 川村, 羊男
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1943, 4(6), p. 585-588
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20491
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

レ線ニテ診断シタル全内臓錯位症ノ17例

徳島縣立徳島醫學専門學校

理學診療科

關 久

坂 本 日 出 雄

徳島縣健康相談所

川 村 羊 男

(本報告ノ要旨ハ第2回日本醫學放射線學會總會ニテ口演セリ)

1. 緒 言

全内臓錯位症ハ、1643年 Marcellus Leiciusニ依リ始メテ其ノ1例ヲ報告セラレ、本邦ニ於テハ明治22年笠原光興氏ニ依リ發表サレテ以來、洋ノ東西ヲ問ハズ本症ニ對スル報告ハ漸次其ノ數ヲ増シ、其ノ研究モ旺ントナリ、現今本邦ノミニテモ已ニ數百例ノ報告ヲミルニ及ベリ。

而シテ近時レ線ニ依リ檢診サレル機會ガ多クナルニツレテ、本症ノ報告例モ著シキ増加ヲミタルモノナリ。

然レドモ其ノ發生原因・遺傳的關係・血族關係等ニ關シ諸說アリテ一定セズ。

幸ニ余等ハ徳島縣下ニテ施行セル53212名ノ集團檢診中ヨリ10名ノ右心症ヲ發見シ、更ニ之ヲ精密ニ檢査セシ所、全内臓錯位症ナル事ヲ發見、更ニ過去10餘年間ノ我が理療科ヲ訪レシ患者25320名中ヨリ7名ノ全内臓錯位症ヲ發見シアリシヲ加ヘ都合17名ノ本症ヲ算スルニ到レリ。

抑々本症ニ關シテ從來問題トナレル所ハ、不全内臓錯位症ガ畸形ナリトサレテ居ルニ反シ、本症ハ發育變態ニシテ、ソノ遺傳的・家族的出現、又ハ血族結婚等ニヨリ生ズルモノナリヤ、或ハ本症ハ一部人士ニ畸形ヲ伴フベシト注目サレ、又ハ諸臟器轉錯ト同時ニ左利ヲ伴フモノナリヤ、辜丸モ反對側ノ下垂ヲナセルヤ、體質ニ於テモ常人ト異リ虛弱體質ニシテ過激ナル運動ニ支障アリヤ、又智囊ノ發育ノ如何、虛弱ナル故ニ結核性疾患ニ罹患シ易ク罹患スレバ速ニ増悪シ治癒傾向少キモノカ等ノ事項ナリ。

今各個人ニ付キ詳説スルノ煩雜ヲ避ケ一括シテ左ニ表記スレバ別表ノ如シ。

2. 考 按

1. 本症ノ發生原因ニ關シテハ、不同加温說、血管誘導說、胚胎位置及發育異常說、遺傳說等ヲアリテ未解決ノ問題ニシテ今後共之ノ解決ハ困難ナルベシ。

	姓名	性別	職業	既往症	年	利腕	畸型	睾丸	肺結核	血 族 關 係			
										畸型	利腕	結核性素因	ソノ他
I	武○キ○	♀	小使	腎臟炎	64	右	認メズ			認メズ			
II	大○ス○子	♀	教師	感 冒	27	右	認メズ			認メズ			
III	谷 ○ 昭	♂	教員		35	右	”	右下垂		”			
IV	三○伸○	♂	教員		21	右	”	右下り		”			
V	藤○茂○	♂	理髮業		16	右	”	左下り		”	1名 左利		
VI	岸 ○ 夫	♂	職人		34	右	”	右下り		”			
VII	先○武○	♂	職人		41	右左	”	右下り		”			
VIII	西○利○	♂	兒童		10	右	”	右下り	肺結核	”	1名 左利	肺結核ニテ 父死亡ス	
IX	小○政○	♂	教員		36	右	”	右下り		”			
X	廣○ハ○エ	♀	女工		16	右	”			”			
XI	西○猛○	♂	竿師		18	右	”	右下り		”			
XII	赤○權○郎	♂	無	胃潰瘍	38	右	”	右下り		”			
XIII	松○眞○	♀	無	百日咳	4	右	”		肺門結核	”			
XIV	鳥○ツ○	♀	兒童		14	右	”		肺結核	”			
XV	岡 ○ ネ	♀	無	胃下垂	50	右	”			”			
XVI	大○テ○ミ	♀	無	感 冒	22	右	”			”			
XVII	宮 ○ 令○	♀	兒童		10	右	”			”			

1. ソノ遺傳の家族の出現ニ關シテハ大島・前川氏等ノ報告アリ。最近亀谷ハ兄弟2人ノ右心症ヲ報ズ。余等ノ17名ノ中ニ於テ西○猛○(XI)ト西○利○(VIII)トハ叔父・甥ノ關係ニシテ當然本血統中ニハ興味アル遺傳の家族の出現ヲ期待サルベキナルモ遺憾ナル事ニハ父及ビ祖父母ハ既ニ故人ニシテ如何トモナシ難シ。然レドモ余等ハコ、ニ遺傳の出現ヲ否定スベカラザルコノ事實ヨリシテ、且先人ノ報告ヨリシテ遺傳關係モ重要ナル素因ノ一ツナリト愚考ス。

1. 本症ト畸型トノ關係ニ付イテハ村山・村松氏等ノ論ズル所ナルモ、浮舟・細井・柏崎氏等ハ畸型ヲ伴ハズト言フ。余等モ亦17例中1名ノ畸型ヲモ發見シ得ズ。又運動・智能・記憶力等何ヲ常人ト異ル所ヲ發見セズ。又血族中ニ於テモ特筆スベキモノナシ。惟フニ本症ガ單ナル發育變態ナリト目サル、所以ナリト思惟サル。

1. 利腕ニ關シテハ諸臟器ノ錯位ト同時ニ左利ヲ伴フベシトハ誰シモ考フル所ニシテ、大島ハ本症ノ3例中1人ノ左利トソノ血族中ニ左利3名ヲ發見セリ。又浮舟・橋本氏等ノ報告ニ依リテモ必ズシモ左利ヲ伴ハズ。余等ノ症例ニ於テハ左右利ヲ訴ヘルモノアリ。恐ラクハ生來左利ナリシヲ習慣ニヨリテ右利ニ訂正セルモノナリト思考サル。ソノ他血族中ニ各々2例ノ左利ヲ發見シタリ。惟フニ大島ノ言ヘルガ如ク内臟錯位症ノ左利ハ正常人ノ右利ヨリ若干ノ高率ヲ示ス程度ノモノナルモ生來左利ナルベキモノガ幼時ニ於ケル習慣・作法等ノタメニ矯正サレ小兒ノタメニ忘却セルモノモナシトセズ。故ニ之ヲ嚴格ニ云々スルハ不可能ノ事ナリ。

1. 本報告例ニ於テハ雙胎兒ノ例ヲ發見セザリキ。

1. 性別ニ關シテハ城野ハ 女:♂(8:2)ノ比ニ報ジ。橋本氏ノ報告ハ總テ♀ナリ。細井ハ1例ノ♂ヲ報ジタリ。

余等ノ17例ニ於テハ次表ノ如シ。

	臨牀	集團檢診	合計
♂	2	7	9
♀	5	3	8

今迄ノ報告ニ散見スル男子ガ檢診サレル機會多キガ故

ニ發見サレル機會モ多イトイフ事モ當ラズ。要スルニ男女ノ差ハ問題トスルニ足ラズ。

1. 本症ト體質ニ關シテハ、斯ル錯位者ハ虛弱者殊ニ結核ニ感染シ易ク且進展モ容易ナリトサレ。浮舟氏ハ本症ニシテ肺結核ヲ伴ヘル3症例ヲ報告セリ。ソノ他佐々・新宮等ノ報告モアリ。一般ニ本症ト結核トノ關係ハ屢々見受ケラレル所デアル。

余等ノ17例ヲ通覽スルニ

VIII. 西○利○ ♂ 10歳

既往症 特筆スベキモノナシ。

家族歴 父ハ肺結核ニテ死亡ス。

現症 「ツベルクリン」反應陽性。赤沈ハ1時間値15耗ナリ。全内臓錯位症トシテノ所見ハ之ヲ省略ス。聽診上右胸部ニ於テ殊ニ下部ニ僅カニ呼氣延長アリ。レントゲン所見ニヨレバ右側肺野下部ニ陳舊性ノ結核像ヲ認ム。本患者ハ3ヶ月間ノ過激ナル運動ヲ禁ジ療養ヲ命ジアリシニ經過良好ニシテ殆ンド常體ニ復シタリ。シカシ今後尙或ハ再び再發スルヤモ知レズトシテ觀察中ナリ。

XIII. 松○眞○ 4歳 女

既往歴・家族歴 特筆スベキモノナシ。

現症 内臓錯位症ノ所見ハ之ヲ省略ス。打聽診ニテハ著變ナシ。レントゲン胸部所見ニ於テ比較的陳舊性ト目サル、モ左側肺門ニ相當ノ浸潤像ヲ認メタリ。本患者ノ主訴ナル發熱モ之ガ爲ナラント思惟サレタリ。本患者ハソノ後如何ナル經過ヲ取レルヤ不明ナリ。

XIV. 鳥○ツ○ 女 14歳

既往症・家族歴 特記スベキモノナシ。

現症 内臓錯位症ノ所見ハ之ヲ省略スルモ、聽診上左肺胸部一般ニ呼吸音粗ニシテ血沈ハ1時間値25耗ナリ。レントゲン胸部所見ヲミルニ、左肺中野ニ空洞ノ形成ヲミル。ソノ周圍ニモ浸潤ヲ認メタリ。本患者ハ將來増悪スルモノト推定サレタリ。

之ヲ惟フニ臨牀ヲ訪レシ患者ニ於テハ往々ニシテ呼吸器疾患ヲ具有スル事ハ有り得ベキ事ニシテ7例中2例ノ肺結核患者ハ特ニ多シトスルニ當ラズ。集團檢診ノ結果10例中1例ノ陳舊性肺結核ヲ有スルモノ、在リシハ是又有り得ベキ事ニシテ本症ト結核性疾患トニ關シテ云々スルニハ、今後之ヲ17名ノ者ノ健康状態ヲ具サニ觀察シテユク事ニヨリ、或程度ノ解決ハ期待出來ルモノト信ズル。

1. 本症ニ於テハ總テノ臟器ガ鏡像位ヲトルトスレバ舉丸ノ下垂側モ常人ト反對ニナルベキデアル。堀井ニヨレバ正常人ノ左舉丸下垂率ハ98%ナリトイフ。併シテ諸家ノ報告ニヨルニ本症ノ右舉丸下垂率ハ66%~92%前後ナリ。

余等ノ男性9例ニ於テハ7例迄右舉丸ノ下垂ヲ示セリ。2例ニ於テ左舉丸下垂即チ正常人ト同側下垂ナリキ。即チ77%ニ於テ正常人ト反對側ノ下垂ヲ示セリ。

1. 本症ノ發見頻度ニ關シテハ堀井・村松・城野等ノ報告ニ依レバ0.85%~0.19%ノ間ニシテカナリノ懸隔アリ。余等ノ頻度ヲ檢討スルニ集團檢診ニ於テハ0.2%・臨牀上ニ於テハ0.28%ニシテ先人ノ報告ノ域ヲ出デズ。

更ニ集團檢診中ノⅡ「大〇ス〇子」・Ⅲ「谷〇昭」・Ⅳ「三〇伸〇」ノ3名ニ關シテハ同地區ニ限局シテ存在シアルモノニシテ。シカモ調査ノ範圍ニ於テハ血族ノ連絡モナシ。或ハコノ地方一帯ニ根本的檢索ヲ施セバ本症ノ發生原因竝ビニ遺傳的家族的出現ノ根本問題ノ確證ヲ得ルニ非ズヤト目下調査中ナリ。

4. 結 語

1. 余等ハ我が臨牀ヲ訪レシ患者25320名竝ビニ集團檢診ヲ施行シタル53212名中ヨリ17名ノ全内臟錯位症ヲ發見シタルヲ以ツテ之ニ對シ從來論議サレツ、アリシ諸問題ヲ檢討シ本症例ヲ既ニ發表セル諸先輩ニ追加セントス。

2. 本症例中一地區ニ扁在セル3名ニ關シテハ更ニ同地區竝ビニソノ附近一帯ニ根本的檢索ヲナシ後日之ヲ發表セントス。

稿ヲ終ルニ臨ミ御指導。御校閱ヲ賜リシ牧野利三郎博士ニ深甚ノ謝意ヲ表ス。

文 獻

- 1) 吉田, グレンツゲビート. 第8年. 第10號.
- 2) 龜谷, 實驗醫報. 第28年. 第331號.
- 3) 村松, 北越醫學會雜誌. 第41年.
- 4) 浮舟, グレンツゲビート. 第10年. 第6號.
- 5) 細井, グレンツゲビート. 第9年. 第4號.
- 6) 柏崎, グレンツゲビート. 第9年. 第4號.
- 7) 城野, 滿鮮之醫界. 126號.
- 8) 土方, グレンツゲビート. 第10年. 第6號.
- 9) 笠原, 東京醫學會雜誌. 第3卷.
- 10) 堀井, 軍醫團雜誌. 第11號.